

# 今年度の活動を振り返ります

岐阜健康友の会会長 大塚 研二

2024年4月～12月の統計

班会回数	37回
班会参加者数	420人
職員参加数	53人
チラシ配布	38人 (職員実人数)
地域訪問	地域：10人 (実人数)
〃	職員：78人 (実人数)

**1、会員の要望・要求に基づく活動**  
 新病院の開院が私たちの活動に大きな弾みとなり、活動方針の「各支部や班で進める活動」と「全体で協力しながら進める活動」が互いに支え合い前進しました。8支部から13人が参加した全国の共同組織交流集会(岡山)、多くの地域の皆さんとともに新病院の完成を祝い参加した「健康まつり」、8支部から16チームが参加したモルック大会、3会場での4人の若い医師による健康班会、職員と進める健康づくり(骨密度測定)、「肺活量測定」、「認知症について」、「サプリメントとは」、「嚥下について」などの取り組みに加え、各支部の創意ある元気な活動(「いつでも元気」読者交流会、生き生き筋トレ体操、子ども食堂まつり、介護保険について、自治会、社協との合同の健康座談会、バス旅行など)が広がりました。

**2、仲間を広げ、勤医協基金の目標達成をめざす活動**  
 12月末までに、友の会会員増は152人(純増67人)、「いつでも元気」27増、基金2946万円(2億目標にあと3725万円)です。弾みのついた活動と、地域の説明会、訪問活動、チラシ配布、新病院内の友の会コーナーでの声掛けなどに取り組んだ成果が現れています。

**3、平和と憲法を守る活動**  
 友の会の呼びかけに応える人は多くいます。仲間を増やし、基金の目標達成を目指しましょう！

**①健康友の会、岐阜民医連と藍川地域の9条の会などが主体となった「岐阜市に日本国憲法9条の碑を建立する会」が、様々な団体と個人に協力を呼びかけ、岐阜市で初めての9条の碑を、みどり病院正面玄関前の芝生に建立しました。12月末時点で全国53になる9条の碑は、平和と憲法を考え行動する地域の平和のスポットです。**

**②核兵器のない世界をめざす活動**  
 ノーベル平和賞受賞式に参加した日本被団協事務局長の木戸季市さん(岐阜市在住)を招き開かれた「平和のつどい」で、木戸さんは「反核・平和の活動は、人間らしい生き方を阻害するものに正面から反対する活動であり、すべての人が受け継ぐことを期待する。」と語っています。

## 隔月学習会

～希望の給食～

昨年の12月8日午後3時から「希望の給食」学習会を旧透析センターで開催しました。学校給食の課題や問題点について学ぶ機会を、ということで、病院の待合室や小児科の窓口などで参加をよびかけました。参加者からは「いい内容だったので、もっと多くの人に聞いてほしかった。」などの感想が寄せられました。

学校給食については、無償化の動きと、さらに有機食材にするという運動が全国で進められています。今回は、特に、先進的な取り組みのある千葉県いすみ市や長野県の松川町、東京都武蔵野市、さらに韓国の特産品の豊富な事例報告を学びました。



## 医師・薬剤師・看護師が講師で学習班会を開催



**長良支部**  
 テーマ「物忘れ・その先は？」  
 講師 みどり病院 福島 麻悠子 看護師



1月28日(火) 参加者19名  
 認知症看護認定看護師を講師に学習班会を開催しました。参加者からは日常生活で忘れる事の不安についての質問があり、講師からは予防のために身近な工夫をすること、いつでも集まれる場所の重要性を説明してもらいました。

**野村・和高支部「地域の茶の間だらん」**  
 テーマ「腸内環境の改善と食生活」  
 講師 ファルマネットぎふ 青山 栄司 薬剤師



12月11日(水) 参加者11名  
 青山薬剤師を講師に健康班会を開催。参加者からは、最新の医学情報と講師の「自家製ヨーグルト」などの実践に基づく説得力のあるお話が聞き、とても良かったと好評な学習会でした。

**藍川支部**  
 テーマ「冬に向けて血管のお話」  
 講師 みどり病院 鈴木 圭 医師



12月12日(木) 参加者13名  
 みどり病院の鈴木医師を講師に健康班会を開催。参加者の中には、質問したいことがあり初めての方もいました。質問に対して鈴木医師から、とても丁寧に答えて頂いたとの感想で、有意義な学習会となりました。

## 風船爆弾

～戦争と平和を語り継ぐ絵本～



児童文学作家

堀野 慎吉

◆問い合わせ先◆  
0800・16008・23002

この憂うべき状況を、何としても止めなければならぬと思っ  
 ています。私は、そうした熱い想いをこめて全力でこの物語を  
 書き上げました。  
 今年は、戦後80年にあたります。戦争体験の風化が叫ばれる中、  
 この本がより多くの人たちに読まれ「戦争と平和」の問題を考  
 えるきっかけになることを祈っています。

わが国においても、安保政策を大転換させた安保三文書の改定  
 による専守防衛の撤回や防衛装備移転三原則運用指針を改正し  
 て、殺傷能力のある武器輸出が可能になってしまいました。そ  
 れも国会などでの十分な議論もありません。まさに「新しい  
 戦前」がじわじわと進んでいます。  
 今、世界を見渡すとロシアのウクライナ侵攻、イスラエルと  
 ハマスの戦争は泥沼化し、たくさんの人たちが住処を奪われ傷  
 つき殺されています。特に幼気な子どもたちが犠牲になってい  
 ることに心が痛んでなりません。

手渡きの美濃和紙は「極上千年」と言われるように限りなく  
 美しい平和の産物。私の両親も漉いていた美濃和紙が戦争中、  
 人を殺める殺人兵器に使われていた。美濃市や私の住む関市の  
 人たちが、その和紙を漉き、その和紙を使った「風船爆弾づくり」  
 に地元の若い学生たちが強制的に動員されていた。そうした  
 歴史的な事実を踏まえ、私は主人公の女子学生「芳恵」を登場  
 させ、物語を書き進めました。

アメリカ軍の反撃により戦況は劣勢悪化の一途を辿りました。追  
 い詰められたわが国は、その起死回生の作戦を考えだしました。  
 そこで生み出されたのが美濃和紙を使った「風船爆弾」でした。  
 和紙にこんやく糊を塗り何重にも貼り合わせて丈夫な気球を  
 作り、その気球に爆弾を積んで偏西風に任せアメリカまで飛ば  
 し、街を焼き払うという驚くような作戦です。

先のアジア太平洋戦争  
 で亡くなった人は三百十  
 万人にものぼると言われ  
 ています。一九四一(昭  
 和十六)年にハワイの真  
 珠湾奇襲攻撃から始まっ  
 た太平洋戦争は、最初の  
 頃の勢いはつかの間、ア



# 9条を守ろう！